

第十六話

将門蜂起事清見原天皇事

『前太平記』上 卷第三 五十頁から五十二頁より

平将門の逆心は、日に日に大きくなって、いよいよ隣国に攻めようと計画していたが、公連の諫死に、流石にきまりが悪く思ったのだろうか、少しの間、決行を先

耻づかしくや思ひけん、

延ばしにして、年月を過ごしたのだった。しかし、事態を黙って見過ごすべきはないと思って、再び主だった一族の者を集め、もう一度合戦の取り決めを話し合う。

この時に、平兼任という者がいる。常陸国大判官平国香の三男、貞盛の弟で、将門にとっては従弟である。このような陰謀の計画とも知らないで、（招集の）催促に応じて、同じように座に列になってお座りになったが、各々の意見で、軍勢の配置

面々の意見、 軍勢の手分け、

や計画の内容の細かいところまでを、すべて聞いて、気持ちをさっと集中させて、

謀の次第まで委細に聞き澄まして、 心に屹と思惟して、

とりわけそんな様子もない風でいらっしやっただのだった。こうして、評議は事終つ

態とさりげなき躰にてぞ

て、全員退出する。兼任も内心愉快に思って、騙し遂げたと、一人笑みを浮かべ

御在しける。 兼任も心に嬉しく、 すかし果せたりと 独り笑みして、

て、馬を急がせ、常陸国にお帰りになる。

駒を早め

その後、将門が申し上げたことは、「確かに全員が意見を残らず申し上げられるところに、兼任一人が全く一言に意見もない。察するところ、奴はきっと裏切りの

一言の議なし。

思惑があるに決まっている。この集まりの席で罰するべきなのに、生きて返してし

彼は二心あるに必せり。 当座に誅すべきものを、 生きて返したる

まったことの口惜しさとは何たることだ。後悔先に立たず（というが）、過ちを悔

事の念なさよ。 先非悔ゆるに益なし。

いるに無駄なことよ」と、その場にもこらえきれずに、躍り上がっては、牙をかみしめて怒りをあらわにした。皆が申し上げたことは、「これはわざとらしいお言

「こは今めかしき御詫。

葉。兼任（の家は）正当なご一族でいらっしゃるのです、どうして、貪欲で残酷な心

豺狼の心を

を抱くはずかとも思われない。度を越して、お心を悩ませるべきではないしょう」

挟まるべきとも覚へず。

と申し上げられたが、将門は、「なんだと、これは悔いに思わないではいられない。昔壬申の乱に清見原の宮（大海人皇子）が、大友皇子の難を避けて、吉野山をお出になり、伊賀伊勢を経て、桑名郡で恐怖の中、月日をお送りになる。その後、村国男依が美濃国で三千人余りを集め、不破の関を差し防ぐ旨を報告する。これによって、清見原の宮が不破に赴きなざると、尾張の国司が二万騎余りの軍勢を率い、彼に従い申し上げる。その他にも、東海・東山の両道の多くの兵が急ぎ集まって、しばらくして大きな軍勢になられたので、美濃国野上の宿に陣を取る。大友皇子はこの次第を聞いて、境部葉・秦友足を両大将として、大勢を差し向け、近江国横川に軍勢を置く。この時、紀伊光勝という者が、殿上人、権助である安田清次のふるまいを見て、彼には反逆心があると思って、すぐにこの者を抹殺したのだった。多くの臣下が不思議に思い、申し上げたことは、『清次の陰謀はまだ噂にもな

未だ其聞こえもなきに、

っていないのに、このようになされることは理解できない。自分勝手な行動だ』と

偏に雅意の振舞いぞ』

疑ったが、清次の懐を探ってみると、案の定、敵の大友皇子への密書がある。そう

内通の音書あり。

いうことで、光勝が思慮深く、見識の明るいことを感じ、多くの人がその疑念を解いたのだった。その後、合戦が多くあって、大友の諸将があちらこちらで討たれ、皇子も栗津の戦に敗北し、山中で首をくくり死んだ。その他の仲間は罪の軽き重き

を明らかにして調べ上げ、ある者は処刑し、ある者は流刑にして、天下すべてが治まり、大和国に都をご造営になって、天武天皇を名乗った。大方人に顔つきを見

凡そ人の形を見て

て、その心を知ることは、口で味わって、その形を知るかのように容易である。故

其心を知ること、 口に味はひて 其色を知るが如し。

事をもって、今の状況を考えるに、兼任を抹殺しないことは、虎に羽を付けて、竹

虎に翅を付けて

林に放つようなことだ。もし、このことを先延ばしにしたならば、敵に勢いがつい

竹の林に放つが如し。

て、恐ろしい事態になろう。方々のことを後回しにして、まずは国香を攻めよう」と言って、舎弟御厨三郎将頼を大将として、国中の軍勢、二千五百騎余りを集め、常陸国へと押しかける。

公連の諫死の時同様荒々しさを感じる将門ですが、きちんとした知略を秘めた文武両道の武将のように感じられて面白いです。感想・指摘・叱咤激励、随時受け付けております。Twitter やメール等でご連絡ください
m()m

公開：2015/6/19

※※※訳の引用・スクリーンショットなどは、作品名及び本サイトのURL（月下庵/<https://gekkaanzentaiheiki.wixsite.com/mysite>）をご記載いただけましたらご自由にさせていただいて結構です。※※※

